

# 入域観光客統計概況

- 平成13年1月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 1月の入域観光客数は344,500人で前年同月比2.6%増(8,700人増)で、5ヶ月連続で対前年同月比が増加、及び月間の過去最高記録を更新した。
- 2 空海路別にみると、空路は333,500人で前年同月比1.7%増(5,700人増)、海路は11,000人で同37.5%増(3,000人増)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から126,400人で前年同月比 0.2% ( 300人)、阪神から61,100人で同 5.0% ( 3,200人)、福岡から47,100人で同 1.1% ( 500人)、名古屋から30,200人で同17.1%増(4,400人増)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が126,400人(構成比36.7%)、次いで阪神61,100人(同17.7%)、福岡47,100人(同13.7%)、名古屋30,200人(同8.8%)、鹿児島12,400人(同3.6%)、札幌11,100人(同3.2%)、広島7,800人(同2.3%)、仙台4,700人(同1.4%)、熊本4,200人(同1.2%)、新潟 2,900人(同0.8%)、小松2,800人(同0.8%)となった。外国客は16,600人(構成比4.8%)で前年同月比80.4%増と前年同月期を大きく上回った。
- 5 1月の入域観光客数の特徴としては、本土航路の微増に加え、台湾において旧正月の時期と休日の並びが良く大型連休となったこと、また、公務員の完全週休二日制が導入されたこと、スタークルーズ社の旧正月期間中の増便などに伴う旅行ニーズの高まりから、台湾からの旅行客が増加し、外国航路は大幅な伸びを記録した。このため、全体として5ヶ月連続となる対前年同月比の増加及び月間の過去最高記録を更新することとなった。

# 入域観光客統計概況

- 平成13年2月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 2月の入域観光客数は377,000人で前年同月比 2.7% ( 10,400人)で、6ヶ月ぶりの対前年同月比の減少となった。
- 2 空海路別にみると、空路は369,800人で前年同月比 1.8% ( 6,700人)、海路は7,200人で同 33.9% ( 3,700人)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から147,100人で前年同月比1.7%増 (2,400人増)、阪神から65,400人で同 5.2% ( 3,600人)、福岡から55,700人で同1.8%増 (1,000人増)、名古屋から32,400人で同8.4%増 (2,500人増)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が147,100人(構成比39.0%)、次いで阪神65,400人(同17.3%)、福岡55,700人(同14.8%)、名古屋32,400人(同8.6%)、札幌10,800人(同2.9%)、鹿児島10,700人(同2.8%)、広島7,600人(同2.0%)、熊本5,000人(同1.3%)、仙台4,900人(同1.3%)、新潟3,900人(同1.0%)、小松3,000人(同0.8%)となった。外国客は11,000人(構成比2.9%)で前年同月比 42.7%と前年同月期を大きく下回った。
- 5 2月の入域観光客数の特徴としては、本土航路については、東京や名古屋など増加した路線もあったが、一方で、出雲線が2、3月運休となったこと、昨年がうるう年であったこと、台湾において旧正月の時期が昨年と異なり、ひと月早くなったこと、阪神航路の伸び悩みが続いていること等により、全体として6ヶ月ぶりとなる対前年同月比の減少となった。

# 入域観光客統計概況

- 平成13年3月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 3月の入域観光客数は431,200人で前年同月比 4.9% ( 22,200人)で、対前年同月比で先月に続く減少となった。
- 2 空海路別にみると、空路は422,600人で前年同月比 4.0% ( 17,600人)、海路は8,600人で同 34.8% ( 4,600人)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から173,800人で前年同月比 0.4% ( 700人)、阪神から75,800人で同 13.5% ( 11,800人)、福岡から57,700人で同 5.9% ( 3,600人)、名古屋から37,300人で同0.8%増 (300人増)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が173,800人(構成比40.3%)、次いで阪神75,800人(同17.6%)、福岡57,700人(同13.4%)、名古屋37,300人(同8.7%)、鹿児島14,500人(同3.4%)、札幌12,200人(同2.8%)、広島8,800人(同2.0%)、仙台5,900人(同1.4%)、熊本4,200人(同1.0%)、小松4,000人(同0.9%)、新潟3,200人(同0.7%)となった。外国客は12,000人(構成比2.8%)で前年同月比 19.5%と前年同月期を大きく下回った。
- 5 3月の入域観光客数の特徴としては、本土航路については、阪神航路の伸び悩みに加え、福岡航路が減少に転じた。また、東京をはじめとするその他の路線については、ほぼ前年並みとなった。なお、出雲線については2月に引き続き3月も運休となった。外国航路については、台湾空路が大幅増となったが、同海路については、就航便数の減少により大幅減となったため、外国総数では、20%弱のマイナスとなった。こうしたことにより、全体として先月に続く、対前年同月比の減少となった。

# 入域観光客統計概況

- 平成13年4月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 4月の入域観光客数は382,000人で前年同月比9.8%増(34,200人増)で、3ヶ月ぶりに対前年同月比が増加となり、4月期の過去最高となる38万人台を記録した。
- 2 空海路別にみると、空路は372,700人で前年同月比10.5%増(35,500人増)、海路は9,300人で同12.3%(1,300人)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から158,400人で前年同月比14.3%増(19,800人増)、阪神から71,000人で同5.2%増(3,500人増)、福岡から48,500人で同3.2%増(1,500人増)、名古屋から31,500人で同12.1%増(3,400人増)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が158,400人(構成比41.5%)、次いで阪神71,000人(同18.6%)、福岡48,500人(同12.7%)、名古屋31,500人(同8.2%)、鹿児島11,900人(同3.1%)、広島8,300人(同2.2%)、仙台5,500人(同1.4%)、札幌4,400人(同1.2%)、熊本3,800人(同1.0%)、新潟3,800人(同1.0%)、小松2,700人(同0.7%)となった。外国客は15,500人(構成比4.1%)で前年同月比8.8%と前年同月期を下回った。
- 5 4月の入域観光客数の特徴としては、国内については、東京航路の大幅な増加に加え、阪神航路が平成12年3月以来、13ヶ月ぶりに増加となったことがあげられる。  
また、その他の航路についても、ほぼ全面的に増加となっている。  
海外については、空路はほぼ前年並みとなったが、海路については、台湾航路の就航機材の縮小により減少となったため、外国総数では、若干のマイナスとなった。  
こうした結果、全体としては3ヶ月ぶりに対前年同月比が増加となり、4月期の過去最高となる38万人台を記録した。

# 入域観光客統計概況

- 平成13年5月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 5月の入域観光客数は337,000人で前年同月比4.4%増(14,100人増)で、先月に続き対前年同月比が増加となり、5月期の過去最高となる33万人台を記録した。
- 2 空海路別にみると、空路は329,400人で前年同月比6.2%増(19,100人増)、海路は7,600人で同39.7%(5,000人)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から129,600人で前年同月比6.6%増(8,000人増)、阪神から67,100人で同10.4%増(6,300人増)、福岡から48,800人で同0.4%増(200人増)、名古屋から24,800人で同6.0%増(1,400人増)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が129,600人(構成比38.5%)、次いで阪神67,100人(同19.9%)、福岡48,800人(同14.5%)、名古屋24,800人(同7.4%)、鹿児島13,300人(同3.9%)、広島5,000人(同1.5%)、熊本3,900人(同1.2%)、札幌3,700人(同1.1%)、仙台3,600人(同1.1%)、岡山3,300人(同1.0%)、小松3,100人(同0.9%)となった。外国客は13,400人(構成比4.0%)で前年同月比25.1%と前年同月期を下回った。
- 5 5月の入域観光客数の特徴としては、国内については、先月に引き続き、東京及び阪神航路が増加したことに加え、名古屋、福島、高知航路も増加したことがあげられる。  
また、札幌航路は昨年、季節運航期間が短縮されたが、本年は運航しており、対前年同月比で皆増となったことがあげられる。  
海外については、空路はほぼ前年並みとなったが、海路については、台湾航路が昨年の週2便から週1便に変更となったことや台風のため1便欠航したことなどのため、外国総数では、マイナスとなった。  
こうした結果、全体としては先月に続き対前年同月比が増加となり、5月期の過去最高となる33万人台を記録した。

#### 増加要因

航空各社が沖縄キャンペーンを展開しており、特に、東京航路の提供座席が増加したこと（東京-那覇間の提供座席数 JAL 105.6%、ANA 126.4%、JAS 130.5%となっている）

今年は航空法改正直後の昨年に比べると、航空各社の価格決定が早く、これに呼応して、各エージェンツ等による商品造成がスムーズにいったこと

#### 懸念される要因

東京都教育庁からの都立学校への修学旅行費用85,000円の上限枠通知については、現状のところ、2001年、2002年は対前年度比で伸びており、総じて沖縄への影響は見られないが、ユニバーサル・ジャパンへ渡航先をスライドするところも見られ、楽観視は出来ない

スタークルーズは、リピーターの獲得に苦戦しているようで、全体的に減少傾向にあるのはその影響と考えられるが、6月からは新しく石垣のコースがスタートしており、増加に転じることを期待したい

ユニバーサル・ジャパンはオープン時の苦戦を取り返すために、大規模なキャンペーンを展開しており、4月当初のような楽観視は出来ない

#### 来月以降の動向

6月20日付け現在の航空乗客輸送実績は、4%前後の伸びを示している。  
（詳細は別添資料）

航空会社の予約状況は前年並みはクリアしていると伝えられているが、エージェンツやホテル業界からは、夏場の苦戦が伝えられており、楽観視は出来ない

# 入域観光客統計概況

- 平成13年6月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 6月の入域観光客数は354,900人で前年同月比5.2%増(17,700人増)で、3ヶ月連続で対前年同月比が増加となり、6月期の過去最高を記録した。
- 2 空海路別にみると、空路は343,600人で前年同月比5.8%増(18,700人増)、海路は11,300人で同8.1%(1,000人)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から146,000人で前年同月比3.4%増(4,800人増)、阪神から71,100人で同13.4%増(8,400人増)、福岡から48,000人で同3.7%増(1,700人増)、名古屋から25,300人で同8.6%増(2,000人増)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が146,000人(構成比41.1%)、次いで阪神71,100人(同20.0%)、福岡48,000人(同13.5%)、名古屋25,300人(同7.1%)、鹿児島11,500人(同3.2%)、広島6,000人(同1.7%)、仙台4,200人(同1.2%)、熊本3,900人(同1.1%)、岡山3,300人(同0.9%)、小松2,800人(同0.8%)となった。外国客は20,900人(構成比5.9%)で前年同月比8.3%と前年同月期を下回った。
- 5 6月の入域観光客数の特徴としては、国内については、先月に引き続き、東京、阪神、福岡、名古屋、小松航路が増加したことがあげられる。  
海外については、空路12,800人で同5.9%(800人)、海路8,100人で同12.0%(1,100人)となり、外国総数で20,900人で同8.3%(1,900人)となった。  
こうした結果、全体として3ヶ月連続で対前年同月比が増加となり、6月期の過去最高を記録した。

#### 増加要因

航空各社が沖縄キャンペーンを展開しており、特に、東京航路の提供座席が増加したこと（東京-那覇間の提供座席数 JAL 111.9%、ANA 122.6%、JAS 139.2%となっている）

今年は航空法改正直後の昨年に比べると、航空各社の価格決定が早く、これに呼応して、各エージェンツ等による商品造成がスムーズにいったこと

阪神方面の中学校の修学旅行が増加していること

スタークルーズが6月に入り新たな石垣コースが好調で、昨年並みまで引き上げてきていること

#### 懸念される要因

東京都教育庁からの都立学校への修学旅行費用85,000円の上限枠通知があったが、現状のところ、2001年、2002年の予約等、入込み状況は対前年度比で伸びており、総じて沖縄への影響は見られないが、ユニバーサル・ジャパンへ渡航先をスライドするところも見られ、楽観視は出来ない

ユニバーサル・ジャパンはオープン時の苦戦を取り返すために、大規模なキャンペーンを展開しており、4月当初のような楽観視は出来ない

#### 来月以降の動向

7月20日付け現在の航空乗客輸送実績（RAC除く）は、30.2%の伸びを示している。

ただし、対前々年と比較すると、大手3社で 3.8%となっている。

航空会社の予約状況は前年並みはクリアしていると伝えられているが、エージェンツやホテル業界からは、夏場の苦戦が伝えられており、楽観視は出来ない

現在、この状況について、県、OCVBにて各関係団体のヒアリングを行い、調査分析中である。

# 入域観光客統計概況

- 平成13年7月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 7月の入域観光客数は409,300人で前年同月比20.3%増(69,200人増)で、4ヶ月連続で対前年同月比が増加となり、過去2番目となる40万人台を記録した。
- 2 空海路別にみると、空路は394,200人で前年同月比21.5%増(69,800人増)、海路は15,100人で同3.8%(600人)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から183,400人で前年同月比23.3%増(34,700人増)、阪神から74,900人で同21.8%増(13,400人増)、福岡から49,500人で同18.1%増(7,600人増)、名古屋から32,000人で同36.2%増(8,500人増)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が183,400人(構成比44.8%)、次いで阪神74,900人(同18.3%)、福岡49,500人(同12.1%)、名古屋32,000人(同7.8%)、鹿児島13,800人(同3.4%)、広島4,900人(同1.2%)、仙台4,700人(同1.1%)、熊本4,300人(同1.1%)、岡山3,100人(同0.8%)、小松2,700人(同0.7%)となった。外国客は22,700人(構成比5.5%)で前年同月比5.4%と前年同月期を下回った。
- 5 7月の入域観光客数の特徴としては、国内については、昨年7月のサミット開催に伴う航空便の提供座席数の減少等に対する反動増が見られる。  
海外については、空路11,200人で前年同月比5.9%(700人)、海路11,500人で同5.0%(600人)となり、外国総数22,700人で同5.4%(1,300人)と、微減となった。  
なお、サミット開催決定を受け過去最高を記録した平成11年7月と比較すると、国内では阪神航路が前々年同月比13.2%(11,400人)、福岡航路が同14.8%(8,600人)、外国海路が同29.4%(4,800人)となり、前年比では反動増となる40万人台を記録、過去2番目となったが、一昨年同月と比較すると前々年同月比7.1%(31,400人)となった。  
主な要因としては、サミット開催決定という好条件を受け平成11年が好調であったこと、平成12年4月の航空法改正に伴う航空運賃の改定により、それ以前に比して割安感が薄れていることなどがある。

「各事務所のコメントより抜粋」

- 関東地区 -

U S J への送客は好調であった

一部エージェントの沖縄旅行商品の価格がやや高めに設定されていた  
キャリアのキャンペーンが多様化、北海道やU S J 等、幅広くなった

- 阪神地区 -

深刻な国内景気の低迷と先の見通しが立たない市場環境から、「安」  
「近」「短」の旅行形態が定着化しつつあり、その結果、企業の団体旅行、  
インセンティブ・ツアー、周年旅行などが減少傾向となっている  
今後については、現在の景気状況やディズニーシーのオープン、「ちゅら  
さん」の放映終了などから楽観できない状況である

- 福岡地区 -

景気悪化による全国的な旅行需要の鈍化

航空運賃の内外価格差縮小による海外観光地（韓国・グアム・サイパン  
等）への分散

U S J の影響 但し沖縄に関しては、客層の違いから影響は一時的なものとする

- 台湾地区 -

海外シェアの9割を占める台湾においては、7月期に2個の台風が来襲し  
た影響が若干見られる

今後については、台湾の経済・景気の落ち込みは深刻で、民生報（台湾の  
新聞社）による7月期の出国市場状況では、カナダ 29.85%、アメリカ  
22.94%、日本 15.65%、香港 4.53%となっており、これまで順調に  
推移していた日本についても影響が出始めており、沖縄への旅行需要にも  
影響が出ると予測される。

8月の動向

8月20日付け現在の航空乗客輸送実績（RAC除く）は、3.2%の伸びを示  
している。ただし、対前々年と比較すると、大手3社で 5.9%となっている。

航空乗客輸送実績が前年比で3.2%の増、一昨年比では大手3社で 5.9%  
（ともに8/20現在）となっており、50万人前後となる見込みである。

# 入域観光客統計概況

- 平成13年8月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 8月の入域観光客数は501,300人で前年同月比0.9%増(4,500人増)で、5ヶ月連続で対前年同月比が増加となり、過去2番目となる50万人台を記録した。
- 2 空海路別にみると、空路は479,400人で前年同月比0.4%増(1,800人増)、海路は21,900人で同14.1%増(2,700人増)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から207,800人で前年同月比3.4%増(6,900人増)、阪神から103,400人で同0.6%(600人)、福岡から62,300人で同1.6%(1,000人)、名古屋から41,500人で同3.0%(1,300人)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が207,800人(構成比41.5%)、次いで阪神103,400人(同20.6%)、福岡62,300人(同12.4%)、名古屋41,500人(同8.3%)、鹿児島20,700人(同4.1%)、広島7,200人(同1.4%)、熊本5,900人(同1.2%)、小松4,600人(同0.9%)、仙台4,100人(同0.8%)、岡山3,500人(同0.7%)となった。外国客は23,500人(構成比4.7%)で前年同月比2.6%増(600人増)と微増となった。
- 5 8月の入域観光客数の特徴としては、前年同月比でみると、国内については、東京航路を除く他の地域は、ほぼ昨年並みで推移している。  
海外については、空路9,700人で前年同月比10.2%(1,100人)、海路13,800人で同14.0%増(1,700人増)となり、外国総数23,500人で同2.6%増(600人増)と、微増となった。  
なお、サミット開催決定を受け過去最高を記録した平成11年8月と比較すると、4.1%(21,300人)となり、過去2番目の記録となった。  
航路別にみると、国内では阪神航路が前々年同月比8.2%(9,200人)、福岡航路が同10.7%(7,500人)、名古屋航路が同5.5%(2,400人)、外国航路が同5.6%(1,400人)となった。  
主な要因としては、サミット開催決定という好条件を受け平成11年が好調であったこと、平成12年4月の航空法改正に伴う航空運賃の改定により、それ以前に比して割安感が薄れていることなどがある。

「各事務所のコメントより抜粋」

- 関東地区 -

「ちゅらさん」は都内で高視聴率を占めており、好影響をもたらしているファミリー層を中心とした商品に特に人気が出ている

- 阪神地区 -

深刻な国内景気の低迷と先の見通しが立たない市場環境から、「安」「近」「短」の旅行形態が定着化しつつあり、その結果、企業の団体旅行、インセンティブ・ツアー、周年旅行などが減少傾向となっている  
反面、アジアを含めた海外需要の増加、JR企画による東北、新潟方面等への個人型商品が増加の傾向にある  
ファミリー層の一部がUSJや近隣の博覧会などへシフトしたとみられる  
「猛暑」が影響し、暑い沖縄というイメージが敬遠され、北海道など避暑地へシフトしたとみられる

- 福岡地区 -

ファミリー層の一部がUSJへシフトした影響とみられる  
低価格旅行商品との価格差による一部業者の販売不振

9月の動向（航空乗客輸送実績）

9月1日～10日の輸送実績は前年と同数値。0.0%（51人増）

9月1日～20日の輸送実績は 1.6%（4,592人）となっている。

# 入域観光客統計概況

- 平成13年9月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 9月の入域観光客数は398,700人で前年同月比1.5%増(5,800人増)で、6ヶ月連続で対前年同月比が増加となり、9月期では過去最高を記録した。
- 2 空海路別にみると、空路は388,000人で前年同月比1.2%増(4,700人増)、海路は10,700人で同11.5%増(1,100人増)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から190,300人で前年同月比5.7%増(10,300人増)、阪神から69,400人で同0.7%増(500人増)、福岡から50,600人で同5.1%(2,700人)、名古屋から26,400人で同0.8%増(200人増)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が190,300人(構成比47.7%)、次いで阪神69,400人(同17.4%)、福岡50,600人(同12.7%)、名古屋26,400人(同6.6%)、鹿児島12,500人(同3.1%)、広島5,500人(同1.4%)、札幌5,300人(同1.3%)、仙台4,000人(同1.0%)、熊本3,200人(同0.8%)、小松2,600人(同0.7%)、岡山2,500人(同0.6%)となった。外国客は14,700人(構成比3.7%)で前年同月比2.6%(400人)と微減となった。
- 5 9月の入域観光客数については、航路別で前年同月と比較してみると、東京航路は5.7%増となっているが、他の地域は昨年並みか、もしくはやや減少で推移している。また、北海道航路が昨年9月は運休であったが、本年9月は就航しており、皆増となっている。  
海外については、空路8,100人で前年同月比21.4%(2,200人)、海路6,600人で同37.5%増(1,800人増)となり、外国総数14,700人で同2.6%(400人)と、微減となった。  
主な増加要因としては、航空各社の提供座席数の増加や、札幌航路の季節運航が早まったことなどが挙げられる。

「各事務所のコメントより抜粋」

東京事務所より - 関東地区 -

9月の時点では、前年並みとなっているが、10月から落ち込むだろう  
10月中旬、テレビで沖縄観光関係の放送があり、それを見た一般客から  
「沖縄はいたって平常なんですね、安心しました」と電話があり、早速代理店にツアーの予約を申し込まれたという話を航空会社支店長から聞いた

大阪事務所より - 阪神地区 -

8月末～9月上旬にかけて発売された格安航空運賃が沖縄への送客を活性化  
化したと思われる

「ちゅらさん」の好評も増加要因の一つに挙げられる

福岡事務所より - 九州・山口地区 -

昨年は夏場の入り込みがサミット開催に伴い9月までずれ込んだと考えられ、  
その反動で微減となった

低価格旅行商品との価格差による一部業者の販売不振

## 9月の動向

(航空乗客輸送実績のうち本土発沖縄向け乗客総数を比較)

JAL, ANA, JAS, JTA, ANKの提供資料より集計、但し「本島 - 離島」間及び「離島 - 離島」間を除く

上旬(1～10日)は +0.2%、 320人の増加

中旬(11～20日)は 3.5%、 4,643人の減少

下旬(21～30日)は +8.2%、 10,082人の増加

## 10月の動向

(航空乗客輸送実績のうち本土発沖縄向け乗客総数を比較)

JAL, ANA, JAS, JTA, ANKの提供資料より集計、但し「本島 - 離島」間及び「離島 - 離島」間を除く

上旬(1～10日)は 9.6%、 11,840人の減少

中旬(11～20日)は 26.8%、 34,627人の減少

# 入域観光客統計概況

- 平成13年10月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 10月の入域観光客数は303,400人で前年同月比 19.4% ( 72,900人)と、大幅な減少となった。
- 2 空海路別にみると、空路は292,400人で前年同月比 20.7% ( 76,500人)、海路は11,000人で同48.6%増 ( 3,600人増)となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から133,900人で前年同月比 16.5% ( 26,400人)、阪神から46,700人で同 25.8% ( 16,200人)、福岡から42,300人で同 18.0% ( 9,300人)、名古屋から20,300人で同 24.5% ( 6,600人)となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が133,900人(構成比44.1%)、次いで阪神46,700人(同15.4%)、福岡42,300人(同13.9%)、名古屋20,300人(同6.7%)、鹿児島10,100人(同3.3%)、広島3,800人(同1.3%)、札幌4,400人(同1.5%)、仙台4,300人(同1.4%)、熊本2,400人(同0.8%)、小松2,200人(同0.7%)、岡山2,100人(同0.7%)となった。  
外国客は18,100人(構成比6.0%)で前年同月比37.1%増(4,900人増)と大幅増となった。
- 5 10月の入域観光客数については、外国海路においてスタークルーズ社の石垣航路が引き続き好調なため大幅増となった以外については、修学旅行を中心とするキャンセルが相次ぎ、軒並み大幅減となった。  
10月の入域観光客数303,400人の内訳については、個人は106,200人(構成比35.0%)、一般団体は160,800人(構成比53.0%)、修学旅行は36,400人(構成比12.0%)と推計される。  
また、今回の減少数 72,900人の内訳については、個人は 9,200人(構成比12.6%)、一般団体は 15,600人(構成比21.4%)、修学旅行は 48,100人(構成比66.0%)と推計される。

「各事務所のコメントより抜粋」

東京事務所より - 関東地区 -

キャンペーンロゴの統一使用により特徴ある旅行商品の造成、沖縄キャンペーン等の計画により、沖縄への送客がこれまで以上に誘客促進の展開が図られると思われる。

大阪事務所より - 阪神地区 -

海外を予定していた修学旅行の国内への主な変更先は、首都圏（TDS）、関西圏（京都・奈良・USJ）、九州圏（ハウステンボス）、北海道となっている。

福岡事務所より - 九州・山口地区 -

10月の九州・山口地域からの総客実績は、対前年同月比で 22.7%（17,400人）となっている。

韓国事務所より - 韓国地区 -

助成金の支援もあり、対前年で1割程度増加の約250名が那覇空港より入国した。

（航空乗客輸送実績のうち本土発沖縄向け乗客総数を比較）

JAL, ANA, JAS, JTA, ANKの提供資料より集計、但し「本島 - 離島」間及び「離島 - 離島」間を除く

時期	始期	終期	H13年(人)	H12年(人)	比率(%)	増減数(人)
9月上旬のみ	9月1日	9月10日	154,284	153,964	0.2%	320
9月中旬のみ	9月11日	9月20日	129,243	133,886	3.5%	4,643
9月下旬のみ	9月21日	9月30日	133,469	123,387	8.2%	10,082
9月末累計	9月1日	9月30日	416,996	411,237	1.4%	5,759
10月上旬のみ	10月1日	10月10日	110,927	122,767	9.6%	11,840
10月中旬のみ	10月11日	10月20日	94,342	128,969	26.8%	34,627
10月下旬のみ	10月21日	10月30日	105,155	145,227	27.6%	40,072
10月末累計	10月1日	10月30日	310,424	396,963	21.8%	86,539
11月上旬のみ	11月1日	11月10日	91,167	139,488	34.6%	48,321
11月中旬のみ	11月11日	11月20日	94,542	133,422	29.1%	38,880

# 入域観光客統計概況

- 平成13年11月分 -

沖縄県観光リゾート局

- 1 11月の入域観光客数は283,400人で前年同月比 24.4% ( 91,500人)と、大幅な減少となった。
- 2 空海路別にみると、空路は274,400人で前年同月比 25.7% ( 94,800人)、海路は9,000人で同57.9%増 ( 3,300人増 ) となった。
- 3 主要幹線の入域状況をみると、東京から117,600人で前年同月比 19.5% ( 28,500人 )、阪神から44,100人で同 27.2% ( 16,500人 )、福岡から47,300人で同 18.6% ( 10,800人 )、名古屋から18,800人で同 32.9% ( 9,200人 ) となった。
- 4 航路別にみると、最も多い東京が117,600人 ( 構成比41.5% )、次いで阪神44,100人 ( 同15.6% )、福岡47,300人 ( 同16.7% )、名古屋18,800人 ( 同6.6% )、鹿児島10,700人 ( 同3.8% )、広島5,000人 ( 同1.8% )、札幌4,400人 ( 同1.6% )、仙台3,300人 ( 同1.2% )、熊本2,400人 ( 同0.8% )、小松1,900人 ( 同0.7% )、岡山2,100人 ( 同0.7% ) となった。  
外国客は13,000人 ( 構成比4.6% ) で前年同月比26.2%増 ( 2,700人増 ) と大幅増となった。
- 5 11月の入域観光客数については先月と同様に、外国海路においてスタークルーズ社の石垣航路が引き続き好調なため大幅増となった以外については、修学旅行を中心とするキャンセルが相次ぎ、軒並み大幅減となった。  
11月の入域観光客数283,400人の内訳については、個人は113,400人 ( 構成比40.0% )、一般団体は150,200人 ( 構成比53.0% )、修学旅行は19,800人 ( 構成比7.0% ) と推計される。  
また、今回の減少数 91,500人の内訳については、個人は 29,800人 ( 構成比32.6% )、一般団体は 13,300人 ( 構成比14.5% )、修学旅行は 48,400人 ( 構成比52.9% ) と推計される。

「各事務所のコメントより抜粋」

東京事務所より - 関東地区 -

キャンペーンロゴの統一使用、特徴ある旅行商品の造成などの沖縄キャンペーン等により、各旅行社とも12月は昨年並みまで回復する傾向にある。

大阪事務所より - 阪神地区 -

宮古、八重山諸島などの離島圏が伸びる傾向にある一方、今後の課題としては、修学旅行実施時期の分散化や、修学旅行に対する総合的な受け入れ体制、サービスの改善（ガイド不足、宿泊施設、食事内容、体験・参加・環境等の多様性に富んだメニューの開発）を今後とも進めていくことがあげられる。

福岡事務所より - 九州・山口地区 -

回復の見通しについて、旅行社の見解は早くて来年の3月、もしくは4月以降とのことである。

韓国事務所より - 韓国地区 -

温泉巡りの九州及び北海道が人気で、沖縄に関してはゴルフ客を中心に少しずつ回復しつつある。しかし、航空運賃や地上費が他の国内地域に比べやや割高なことから、競争力は未だに弱いと見ている。

(航空乗客輸送実績のうち本土発沖縄向け乗客総数を比較)

JAL, ANA, JAS, JTA, ANKの提供資料より集計、但し「本島 - 離島」間及び「離島 - 離島」間を除く

時期	始期	終期	H13年(人)	H12年(人)	比率(%)	増減数(人)
9月上旬のみ	9月1日	9月10日	154,284	153,964	0.2%	320
9月中旬のみ	9月11日	9月20日	129,243	133,886	3.5%	4,643
9月下旬のみ	9月21日	9月30日	133,469	123,387	8.2%	10,082
9月末累計	9月1日	9月30日	133,469	123,387	8.2%	10,082
10月上旬のみ	10月1日	10月10日	110,927	122,767	9.6%	11,840
10月中旬のみ	10月11日	10月20日	94,342	128,969	26.8%	34,627
10月下旬のみ	10月21日	10月31日	105,155	145,227	27.6%	40,072
10月末累計	10月1日	10月31日	105,155	145,227	27.6%	40,072
11月上旬のみ	11月1日	11月10日	91,167	139,488	34.6%	48,321
11月中旬のみ	11月11日	11月20日	94,542	133,422	29.1%	38,880
11月下旬のみ	11月21日	11月30日	105,923	122,886	13.8%	16,963
11月末累計	11月1日	11月30日	291,632	395,796	26.3%	104,164
12月上旬のみ	12月1日	12月10日	94,871	140,973	32.7%	46,102
12月中旬のみ	12月11日	12月20日	76,561	87,729	12.7%	11,168

# 入域観光客統計概況

- 平成13年12月分 -

沖縄県観光リゾート局

1 12月の入域観光客数は310,700人で前年同月比 12.7% ( 45,000人)と、10、11月程ではないが大幅な減少となった。

2 空海路別にみると、空路は305,600人で前年同月比 12.1% ( 42,100人)、海路は5,100人で同 63.2% ( 2,900人)となった。

3 主要幹線の入域状況をみると、東京から136,200人で前年同月と同数の増減なし、阪神から52,800人で前年同月比 18.1% ( 11,700人)、福岡から44,100人で同 11.6% ( 5,800人)、名古屋から23,600人で同 25.6% ( 8,100人)となった。

4 航路別にみると、最も多い東京が136,200人(構成比43.8%)、次いで阪神52,800人(同17.0%)、福岡44,100人(同14.2%)、名古屋23,600人(同7.6%)、鹿児島9,700人(同3.1%)、広島5,900人(同1.9%)、札幌4,000人(同1.3%)、仙台3,600人(同1.2%)、新潟3,200人(同1.0%)、熊本2,700人(同0.9%)、小松2,200人(同0.7%)、岡山2,200人(同0.7%)となった。

外国客は10,000人(構成比3.2%)で前年同月比 10.7% ( 1,200人)となった。

5 12月については、外国海路で定期就航しているクルーズ船舶の沖縄寄港回数が前年の4回から1回へと減少し、外国海路全体での旅客数が半減した。国内では修学旅行を中心とするキャンセルにより、10、11月程ではないが東京を除くほとんどの航路で減少した。

12月の入域観光客数310,700人の内訳については、個人は122,700人(構成比39.5%)、一般団体は177,200人(構成比57.0%)、修学旅行は10,800人(構成比3.5%)と推計される。

また、今回の減少数 45,000人の内訳については、個人は 9,400人(構成比20.9%)、一般団体と修学旅行を併せた減少数は 35,600人(構成比79.1%)、そのうち一般団体は2,700人の増、修学旅行は 38,300人と推計される。

なお、今後の動向については、修学旅行のオンシーズンは過ぎたことから下げ止まりを迎えたと見られ、まだまだ予断は許さないものの、緊急キャンペーン等の効果に伴い、今後は徐々に回復するものと見られる。

「（財）沖縄観光コンベンションビューロー各事務所のコメントより抜粋」

大阪事務所より - 阪神地区 -

メディア系の旅行社では、格安沖縄ツアー商品（19,800円、2泊3日）を販売しており、徐々に増えてきている。

一般団体客の動きはまだ鈍いが、個人型旅行は徐々に増えてきている。

航空各社が離島便（チャーター）や沖縄向け「格安旅行商品」を企画している。沖縄の離島（宮古、八重山諸島）が羽田 - 沖縄離島路線の航空機燃料税2分の1への軽減を受け、伸びる傾向にある。

修学旅行については、

- ・テロ事件から3ヶ月余が過ぎ、キャンセル率も低下し、収束感も出てきている。

- ・国の支援を受けての「沖縄修学旅行、一人上限2千円の助成（平成14年1月～3月）」などは、具体的なメリット提示であり、需要回復に繋がる大きな要因の一つであり、事実、航空会社、旅行社などからの問い合わせが多い。

- ・テロ事件後、OCVBが主体となって実施している「だいじょうぶさあ～沖縄」キャンペーンの効果が徐々にマーケットに浸透してきており、観光客減少に歯止めをかける役割を果たしている。

- ・12月から1月にかけて、修学旅行の問い合わせが増加してきている。

福岡事務所より - 九州・山口地区 -

大手旅行社がユニバーサルやディズニーシーを売れ筋商品として取り組み強化しているが、沖縄はそれに比べて弱く、海外低価格商品の影響も受けている。

今後の見通しでは、現在出ている沖縄観光支援の低価格商品が4月以降に通常価格に戻ると考えられ、それに伴う落ち込みが懸念される。

また、ワールドカップサッカーの日韓共同開催により、マスコミや国民の関心が沖縄から離れるのではないかという懸念もある。

韓国事務所より - 韓国地区 -

テロ事件に対する不安要素の減少、クリスマスや年末年始にかけての年休などで、ゴルフ客やパック旅行市場が若干回復基調にある。

台湾事務所より - 台湾地区 -

平成14年については、台湾航路のスタークルーズ社及び日本アジア航空の運休が予定されている。